

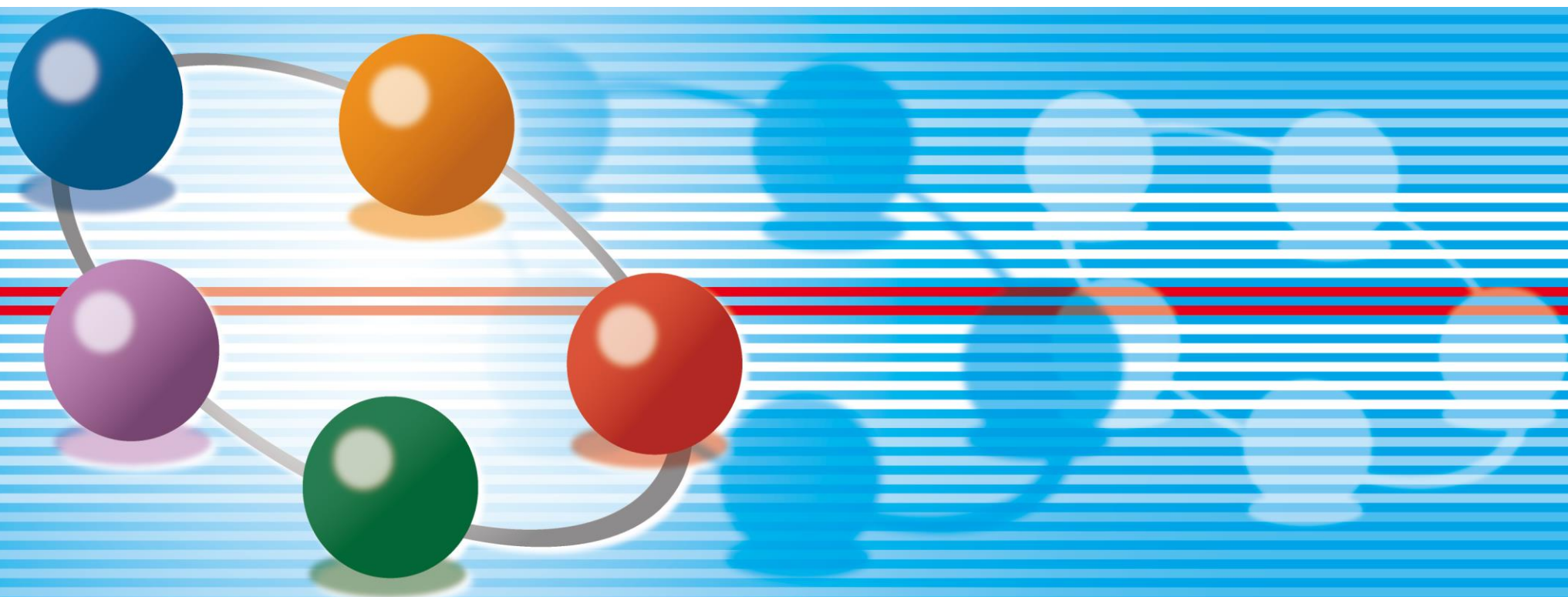


株式会社カワタ 2022年3月期第2四半期 決算説明会 質疑応答 Q & A

2021年11月26日

(今回は、説明会会場およびウェビナー形式にて
質疑応答を実施しております。)

(証券コード 6292 東証第1部)



決算説明会（2021.11.26）質疑応答Q & A

Q: 受注が回復してきたのは理解したが、この1年間で業種別に回復してきたのは、フィルムシート、車載関連、容器などどれが増えたのか。

A: フィルムシートやリチウムイオン電池の正極材を中心としたミキサー関連が増えた。総じて設備投資は活発になっている。

Q: 液晶用フィルムシートについても増えたか。

A: 液晶用フィルムは大型プラントになる場合もあり、需要があった。

Q: スーパーミキサーの上期の実績、受注の数字、伸び率について数値はどうか。

A: 手元に持ち合わせていないが、売上ベースでは大きな伸びにはなっていない。受注ベースでは2Qは昨年比で倍くらいになると思われる。

(続く)

決算説明会（2021.11.26）質疑応答Q & A

（続き）

Q: 売上の10%以内というのはスーパーミキサーだけではなく、EV関連全般か。

A: ミキサーだけではなく材料供給、システム、押出機周辺も含めてである。

Q: ここ1-2年でリチウムイオン電池のセパレータ材料も変わってきていると思うが、技術的な変化について貴社は変わりないか。

A: セパレータの技術的な変化はなく、従来通りお客様ごとにシステム対応をしている。

Q: 3Q以降、受注の減速リスクで中国や部材納期の話が出ているが、実際に受注は落ちているか、懸念であってまだ数字上は落ちていないのか。

A: 一般的に部品の納期、材料費の高騰等の影響が出てくると思われる。中国における汎用品は今年の前半と比較すると減速傾向である。

（続く）

決算説明会（2021.11.26）質疑応答Q & A

（続き）

Q： 7-9月の受注について中国は下がってきているか。

A： そこは申し上げられないが、EV関連の投資は引き続きある。汎用品は夏以降、設備投資意欲は緩やかになっていると感じる。

Q： 現社長になって2年、ご就任前に比べると時期も悪かったが苦戦されている。施策を打たれていると思うが、その施策の内容と、進捗に関してはどういった手ごたえを感じているか。

A： 当社の強みは営業力もあるが、技術力である。現場に寄り添った提案がなければ生き残りは難しい。日本全体そうであるが、技術者の平均年齢も上がってきているので若手を育成していく。これは東アジアも含めてである。技術力を再構築していくことを考えている。これは人を育てていくことなので、時間がかかる。技術も営業も人を育てることを考え、5-10年後に次世代が支えていくことを考えている。外からはもどかしいと見えるかもしれないが、我々としては着実に進んでいると考えている。

（続く）

決算説明会（2021.11.26）質疑応答Q & A

（続き）

Q： 利益の回復のタイミングはどこで確認できるか。

A： 回復のタイミングについては、まだら模様である。東南アジア、特にタイ、ベトナムではコロナ前の勢いまでは戻っていない。半導体の問題もあり、減産も解消されてきているということであるが、自動車産業全体の設備投資が回復すれば利益も回復すると思われる。

Q： 環境対応製品は、全体の連結売上高の中でどれだけの構成比を占めるのか。今後の3-5年目でもよいが、どれくらいの構成比に上がる予定か。

A： 環境対応製品については、原料が通常の石油由来からバイオマスとかリサイクル材にということなので、当社の製品が変わるという訳ではないので、売上比率については把握していない。

（続く）

決算説明会（2021.11.26）質疑応答Q & A

（続き）

Q: プラスチック削減の動きにより、プラスチック全体にネガティブな当たりが強くなっていくと感じるが、どれくらいの影響があるとみているか。ベストシナリオ、ワーストシナリオなど教えてほしい。

A: 例えばストローなど飲食店で使われているものは、紙になったり、リサイクルになったりして使い捨てる量は減っていくが、ペットボトルがなくなり紙やビンになることはないと思われる。プラスチックの軽くて成形しやすいというメリットは残っていくので、自動車であれば電動化や電子部品分野においては、ますますプラスチック材料が使われていくだろうと考えている。電動化、自動運転などはプラスチックを使った部品でなければ対応できないものがあり、用途は広がっていくと考える。

（続く）

決算説明会（2021.11.26）質疑応答Q & A

（続き）

Q： 最終需要先として使い捨てるプラスチックは、どれくらい貴社への需要として依存しているか。

A： 従来はプラスチックは使い捨てであったが、今後、リデュース、リユース、リサイクルに大きく貢献すると思われる。プラスチックが100%だと不燃物だが、プラスチックを49%未満とし、51%以上を炭酸カルシウム、コーンスターチ、古紙等を粉にして樹脂と混ぜる、これがカワタの得意なスーパーミキサーでできる。これによってできた製品は可燃物となり、そういう意味では貢献している。EV化が進む中では航続距離を長くするため、軽量化が必要で金属がプラスチックに置き換わっていく。たとえば、海に流れても、生分解樹脂など細菌と一緒にになって水に戻るような形に変わっていく環境にやさしい使い捨てる樹脂もある。

Q： そういった中で、貴社の供給する機械の単価が上がるなどビジネスチャンスはあるか。

A： 高機能素材については、当社のミキサー技術を持っている企業は少ない。60年以上の経験というのは図面では表せない経験値であり、追従できないもの。今後とも良いものを安く供給できるようにしていきたい。

（了）

● お問い合わせ先

粉体・粒体加工技術をベースに 新素材開発の未来を切り開く

IRに関するお問い合わせ先

株式会社カワタ 総務人事部

電話：06-6531-8211

e-mail：ir6292@kawata.cc

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。